富士山噴火と降灰対策ガイド

もしもの時にあなたと家族の命を守るための実践的な防災情報です。風向き・風速によっては東京圏にも降灰の可能性があります。今すぐ備えましょう。

防災・防犯グッズ総合ショップ
Be-kan 備館
https://www.be-kan.com/

富士山噴火とは

富士山は日本のシンボルであると同時に、活火山でもあります。過去の噴火記録からも、将来的な噴火は避けられない現実です。噴火が発生した場合、最も広範囲に影響するのが「降灰」です。

風向きと風速によっては、東京を含む首都圏全域に火山灰が降り注ぐ可能性があります。2022年1月のトンガ海底火山の噴火では、約8,000km離れた日本でも微量の降灰が観測されました。富士山はわずか100km程度の距離にあるため、その影響は甚大になると予測されています。

降灰がもたらす影響

交通への影響

- 視界不良による交通事故
- 路面スリップの危険性増大
- 鉄道のポイント故障
- 航空機の運行停止

ライフラインへの影響

- 上水道のフィルター目詰まり
- 下水管の詰まり
- 停電（送電設備への影響）
- 通信障害の可能性

健康への影響

- 呼吸器系疾患の悪化
- 目の炎症・角膜損傷
- 皮膚のかぶれ
- 精神的ストレス

火山灰は非常に細かい粒子で、建物の隙間からも侵入します。また、水分を含むと固まる性質があり、排水管を詰まらせる原因になります。健康面では、マスクやゴーグルで保護しないと深刻な影響を及ぼす可能性があります。

情報収集の重要性

富士山の火山活動が高まると、気象庁から「噴火警報」や「降灰予報」が発表されます。これらの情報は、避難や防護措置の判断に不可欠です。

確認すべき公式情報源

- 気象庁の噴火警報・降灰予報
- お住まいの自治体からの防災情報
- NHKなど公共放送の緊急情報

降灰予報で分かること

- どの地域に灰が降るか
- 予想される降灰の量
- 降灰の継続時間

災害時はSNSなどで不確かな情報が拡散しがちです。必ず**公式情報を優先的に確認**し、冷静な判断を心がけましょう。

降灰中の基本行動

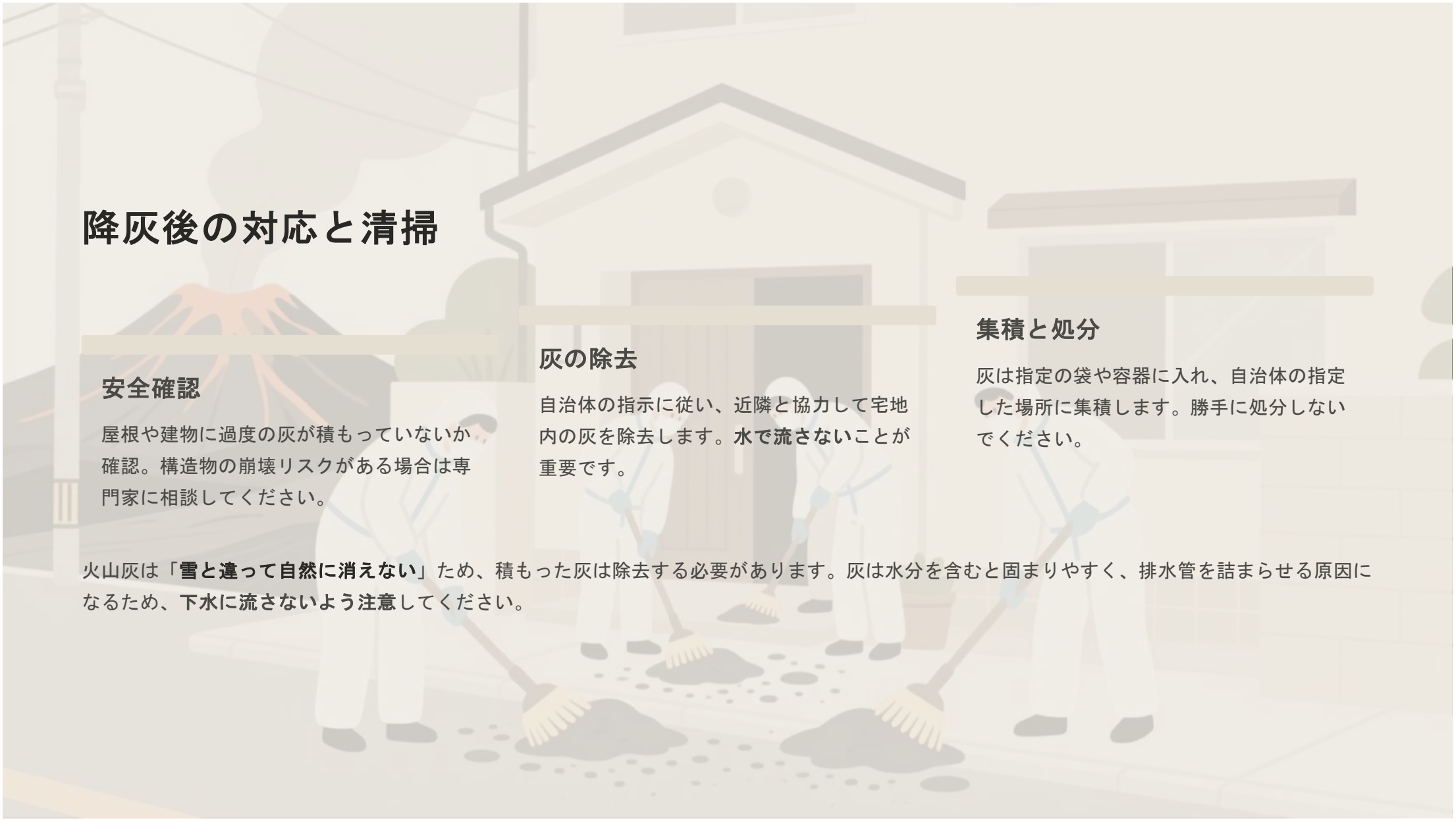
屋内での対応

- **窓・ドアの確実な施錠**：灰の侵入を防ぐ
- **通気口の目張り**：タオルや布で隙間をふさぐ
- **エアコン室外機のカバー**：防塵カバーなどで保護
- **水の確保**：浴槽や容器に水を貯める

外出がやむを得ない場合

- **高密着マスクの着用**：N95規格が望ましい
- **ゴーグルで目を保護**：コンタクトレンズは外す
- **長袖・長ズボン**：肌の露出を避ける
- **帽子の着用**：髪に灰が付着するのを防ぐ

原則として「**不要不急の外出を避け、屋内待機**」を心がけましょう。降灰中の運転は視界不良や路面スリップによる事故リスクが高まるため、極力控えてください。



降灰後の対応と清掃

安全確認

屋根や建物に過度の灰が積もっていないか確認。構造物の崩壊リスクがある場合は専門家に相談してください。

灰の除去

自治体の指示に従い、近隣と協力して宅地内の灰を除去します。**水で流さない**ことが重要です。

集積と処分

灰は指定の袋や容器に入れ、自治体の指定した場所に集積します。勝手に処分しないでください。

火山灰は「**雪と違って自然に消えない**」ため、積もった灰は除去する必要があります。灰は水分を含むと固まりやすく、排水管を詰まらせる原因になるため、**下水に流さないよう注意**してください。

日頃からの備え

飲料水

1人1日3リットルを目安に、最低3日分（できれば7日分以上）を備蓄。定期的に新しいものと入れ替えましょう。

食料品

調理不要で長期保存可能な食品（レトルト食品、缶詰、乾パンなど）を十分に用意。アレルギー対応食も考慮。

防災用品

懐中電灯、電池、携帯ラジオ、非常用トイレに加え、**高密着マスク**と**ゴーグル**を降灰対策として準備。

噴火が長期化する可能性も想定し、可能な限り備蓄を厚くしておきましょう。過去の噴火では2週間以上継続したケースもあります。家族構成や持病のある方の医薬品なども考慮した準備が重要です。

行政の取り組み

東京都を含む関東地方の自治体では、富士山噴火を想定した対策を進めています。主な取り組みには以下のようなものがあります：

- ライフラインや交通インフラの耐降灰対策
- 避難計画の策定と避難所の整備
- 降灰処理のための資機材の備蓄
- 住民向け特設サイトでの情報提供

お住まいの自治体のハザードマップや防災計画を確認し、地域の避難所や緊急連絡先を把握しておきましょう。

重要ポイント（要点の再整理）

1 公式情報の確認

気象庁・自治体の発表する噴火警報や降灰予報を常に確認し、不確かな情報に惑わされないようにしましょう。

2 屋内退避と侵入防止

降灰時は原則として屋内待機。窓・ドアの施錠、通気口の目張りなど、灰の侵入を防ぐ対策を講じてください。

3 健康防護措置

外出時は高密着マスク・ゴーグル・長袖長ズボンで身体を保護。コンタクトレンズは外しましょう。

4 灰は「流さない・固めない」

降灰後の清掃では、灰を下水に流さないこと。自治体の回収指示に従って適切に処理してください。

「備えあれば憂いなし」の精神で、事前準備を万全にしておくことが最も重要です。特に都市部では、インフラへの影響が長期化する可能性も考慮した備蓄が必要です。

いざという時のためのチェックリスト

平常時の準備

- 最低3日分（できれば7日分以上）の水・食料の確保
- 懐中電灯、電池、携帯ラジオの準備
- 非常用トイレ、衛生用品の準備
- 高密着マスク、ゴーグルの用意
- 家族との連絡方法、集合場所の確認

噴火警報発表時

- 気象庁・自治体からの情報を継続的に確認
- 窓・ドア・換気口の点検と対策準備
- 車両の保護（ガレージ内や覆いの準備）
- ペットの保護対策の確認
- 避難指示が出た場合の持ち出し品の最終確認

このチェックリストを印刷して冷蔵庫やリビングの見える場所に貼っておくと、緊急時に慌てずに対応できます。定期的な防災訓練と備蓄品のチェックを行い、**常に最新の状態を維持**しましょう。